

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400054		
法人名	社会福祉法人 幸鐘会		
事業所名	グループホームベにばら妹背牛		
所在地	雨竜郡妹背牛町字妹背牛406番地7		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のケアや、業務に関して、随時スタッフ同士話し合いより良い環境作りに取り組んでいる。また、穏やかな雰囲気の中、皆様笑顔で暮らしています。少しでも地域に貢献できるように、地域の皆様との関わりも大切に考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR妹背牛駅に近い閑静な住宅地にある木造平屋建ての当事業所は、居間兼食堂は広くゆったりとして、天窓からは陽が入り明るく、大きな貼り絵、リース、季節に合わせてクリスマスツリーなどを飾り、家庭的な雰囲気となっている。地域との連携を大切にして、町内会に加入し、清掃、敬老会、お祭りなどの地域行事に参加して交流し、ベにばら花火大会、健康体操などの事業所行事に地域住民が参加して相互に交流している。ボランティアが来訪して、歌謡舞踊などを披露し交流も行われている。また、地域住民の交流の場として、町が運営し毎週月曜に開かれる「わかちあい妹背牛食堂」で、毎月1回昼食をしながら地域住民と交流している。職員は明るく笑顔で、利用者一人ひとりの健康状態を把握して、健康体操、歩行運動や歌を歌うなど、無理強いないようにして「自発性」を引き出すように努めている。利用者数人が職員と一緒に会話をしながら編物をしたり、新聞、テレビを見たり、ゲームをして、それぞれの居場所で、思い思いのことをしてゆったりと過ごしている。利用者、職員の笑い声の絶えない明るい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフが意見を出し合い理念を作った。新たに事業所理念も考えホーム内に掲示し、ネームの後ろにも記入することで把握し、実践に努めている。	事業所理念「地域と連携をとりながら、それぞれの尊厳を守り穏やかな生活の場を目指します。」を全職員で話し合っって新たに作成し、法人理念と併せてホーム内に掲示、ネームプレートにも記入して、職員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入らせていただき、町内の行事や町の催しに積極的に参加している。ボランティアの方にも来ていただき行事などに催し物を披露していただいている。	町内会に加入し、清掃、敬老会、お祭りなどの地域の行事に参加し、健康体操、べにばら花火大会などの事業所行事に地域住民が参加し交流している。「わかちあい妹背牛食堂」が地域との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症について勉強する機会をもうけさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や取り組みを報告し意見をいただき、サービス向上に努めている。	家族、利用者、民生委員、町職員などが出席して、年6回開催している。運営状況、行事、研修状況などについて報告し意見や助言を得てサービス向上に活かしている。「認知症高齢者との関わり方」についての話をして理解を深める取組をしている。	多くの家族の参加を得るため、運営推進会議の結果を報告するなど、運営推進会議の意義や役割等を十分理解して、積極的に参加してもらえるよう家族へ働きかけることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加し、情報交換を行ったり、必要時連絡を取り合い協力関係を築いている。	町担当者には、運営状況の報告などを行って意見交換し、地域ケア会議で意見交換、情報を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇委員会を設立し勉強会などで身体拘束について説明をしている。	接遇委員会があり、資料に基づき研修して、「身体拘束排除宣言」を掲示し、身体拘束をしないケアに努めている。警察、消防、役場、タクシー会社などの協力でSOSネットワークができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	接遇委員会を設立し勉強会などで虐待防止について説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の題材としてあげ、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては入居の際に十分に話し合い理解と納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時などに随時意見や要望を聞き反映に努め、第三者苦情受付窓口を設置したり、アンケートを年に1度施行している。	日常の会話などから利用者の意見、要望の把握に努め、日誌に記入して共有し、家族とは年1回のアンケート、来訪時に会話の時間を作り、意見を聞くとともに「グループホームだより」を送付するなどして家族に知らせ、意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の会議などで意見や要望を取り入れている。	話しやすい雰囲気であり、申し送り時、全体会議、個人面談などで意見、提案などを話し合い検討して運営に反映させている。提案により入浴剤の使用などの業務の改善がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談を行うなどして把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアを振り返る機会を作ったり、ホーム内外の研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	月1回の地域ケア会議や外部研修などで交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談し話を聞き、思いを汲み取って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い思いや要望を聞き信頼できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いなどをお願いし、協力しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のより良いケアの為に話し合い協力しながら関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの来訪時にはゆっくり過ごして頂けるよう関わっている。	馴染みの店での買物、理・美容など馴染みの関係が途切れないよう支援している。知人、友人の来訪時はゆっくり懇談出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように配慮しながら利用者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たまにお話しさせていただくことはあるが、必要に応じ支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は言葉や表情などから本人本位に検討を行っている。	表情、日々の会話、家族の情報から思いや意向の把握に努め職員で共有して、希望や意向に添うように努めている。毎月目標を立てて、利用者の希望などを聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りを行い、記録などから情報を共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎや記録、スタッフ同士で情報共有しながら把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、スタッフ同士で話し合い作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、ケアマネが原案を作成し、サービス担当者会議で協議して、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やカンファレンスで情報共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせてご家族や関係者と協力し合い支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分ではないが、ご本人が地域での暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を取り入れながら適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。職員が同行支援し、医師に状況を説明し、家族に結果を報告している。協力病院による月2回の診療がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には些細なことでも相談し助言をもらっている。診療所にも定期的に情報共有し相談し、適切な受診、訪問診療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と連絡を取り合い適切な治療が受けられるよう、また、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、ご家族と書面を使いお話しさせていただいている。	契約時に利用者、家族に「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明し同意を得ている。重度化が認められた時は、利用者、家族の意向を聞いて、医師・病院と連携し希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行っている。また、個人で救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては昼夜とも想定し定期的な訓練を地域の協力を得ながら行っているが、その他の災害に関しては不十分。	消防署、地域住民の協力を得て、火災想定避難訓練を年2回(昼・夜想定)実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを損なわない対応に努めている。	言葉づかい、態度など接遇に関する内部研を行って、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中から思いや希望を聞き出し自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、出来る限りご本人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や散髪など希望に合わせて支援している。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせてながらお手伝いをお願い一緒にお願いしている。	管理栄養士が献立を作成し、個々人の能力に応じ、買物、調理、茶碗洗いなど職員と一緒にやっている。柿などの季節の果物、家族から野菜などの差し入れがあり話題にしながら職員と一緒に食事を楽しんでいる。毎月1回「わかちあい妹背牛食堂」で昼食をしながら地域住民と交流している。道の駅などで外食をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立で提供している。看護師とも相談しながら状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に合わせてながら行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報交換しながら、その人に合わせた支援をしている。	一人ひとりの排泄を記録し、表情、態度などから適時にさりげなく声かけ誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や食事を工夫したり、毎日体を動かす働きかけをして取り組んでいる。困難な場合は医師に相談し便秘薬を処方していただき定期的な排泄があるよう対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決めさせていただいているが、その中でご本人のペースで入浴できるよう支援している。	週2回の入浴を基本とし、希望があれば利用者の希望に合わせて入浴できる。歌を歌ったり、話をしながら楽しい入浴になるよう努めている。入浴剤も希望により使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて休息したり睡眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と相談し勉強会を行うなどし理解に努め、変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクなどを通して一人ひとりの力に合わせた活動を行い気分転換に努めている。		

グループホームべにばら妹背牛

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるよう支援に努めている。また、予定を決めて普段は行けないような場所へも出かけられるよう対応している。	駅前の噴水を見ながらの散歩、散歩しながらの自宅見学、日光浴を兼ねて植木の水やり・花摘み、季節に応じて桜・なの花見学、ひまわり見学、紅葉狩り、温泉入浴、外食など日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望に合わせて所持している方もいるが、他の方は事務所の方で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたり手紙を出すのを代行したり対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や、温度や湿度調節、換気など居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居間兼食堂は、天窓があり明るく加湿器、温風ヒーターで適度に調整され、季節に合わせクリスマスツリーなどを飾り、大きな貼り絵、リースなどを飾り、家庭的な雰囲気、利用者は職員と一緒に編物をしたり、新聞、テレビを見るなど思い思いのことをしてゆったりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こちら側で取決めせず、ご本人が自由に過ごして頂けるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自由に持ってきていただき居心地よく過ごせるようにしている。	使い慣れたテレビ、家具、絨毯などを持ち込み、壁には写真などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、各居室にわかりやすく掲示し自立した生活ができるよう努めている。		